

(6) 北 陸



北陸地域では、景気は回復している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに増加している。
- ・ 個人消費は緩やかに回復している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

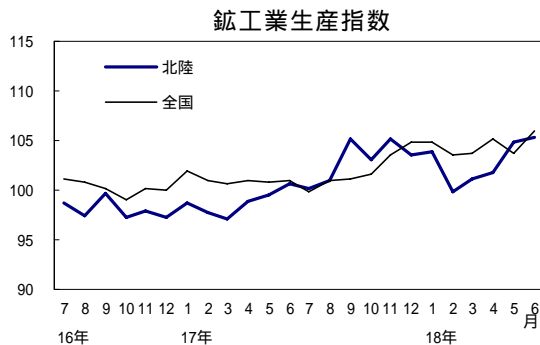
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 18 年 5 月)	今回 (平成 18 年 8 月)	
個人消費	持ち直している	緩やかに回復している	
住宅建設	増加	大幅に増加	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに増加している。

一般機械は、半導体製造装置が、国内外の半導体メーカーのおう盛な設備投資需要を受け、好調だったことや、土木建設機械が世界的な資源開発の活発化などを背景に好調だったことから、2 四半期ぶりに増加している。電子部品・デバイスは、半導体素子・集積回路が薄型テレビなどのデジタル家電や、携帯電話向けに好調だったことから増加している。化学は、界面活性剤は、衣料用の伸び悩みから弱含みで推移しているものの、医薬品が OEM (相手先商標生産) の受注や後発医薬品の生産増などに伴い堅調に推移していることなどから、おおむね横ばいとなっている。繊維は、衣料品が安価な中国製品等との競合により、振るわなかったものの、非衣料品が自動車内装材向けに堅調に推移したことから 6 四半期ぶりに増加している。金属製品は、主にビル向けに建築用金属製品が増加したことから、4 四半期ぶりに増加している。



- (備考) 1. 12年=100、季節調整値。
2. 平成18年6月の北陸は速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

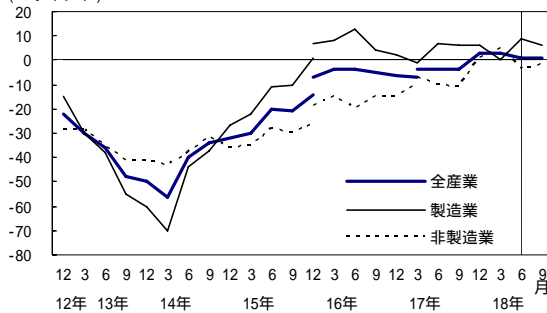
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1~3 月期	4~6 月期	4~6 月期	4~6 月期
一般機械	14.8	13.5	7.0	-	-
電子部品・デバイス	13.8	4.6	7.3	-	-
化学	12.7	0.8	0.7	-	-
繊維	12.4	1.7	2.1	-	-
金属製品	10.6	5.9	3.9	-	-
鉱工業	100.0	2.2	2.4	-	-

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
2. 4~6月期は速報値。
3. 出荷及び在庫指数は公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

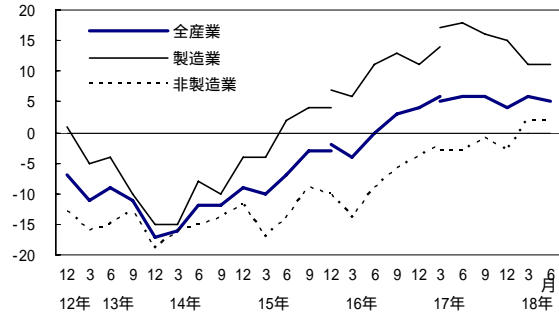
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



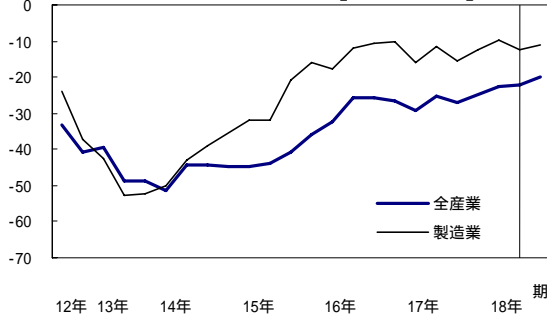
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。18年9月は予測。
15年12月および17年3月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月および17年3月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。18年 期は見通し。
中部地区。

景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

「元請工事、下請工事ともに現場は忙しく、休業の土曜日も返上して対応した。しかし、下請工事の採算は悪く、忙しい割には利益が確保できない(建設業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

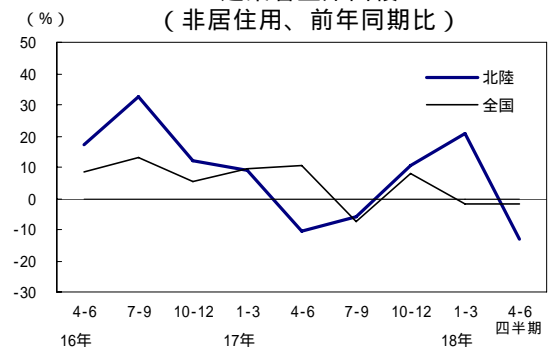
(3) 18年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(6月調査)]

	(前年度比、%)	
	17年度実績	18年度計画
全産業	8.1 (0.2)	12.4 (2.0)
製造業	5.9 (0.3)	20.4 (3.6)
非製造業	12.6 (1.2)	2.5 (1.5)

(備考)()は前回(3月)調査比修正率。

建築着工床面積
(非居住用、前年同期比)



2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに回復している。

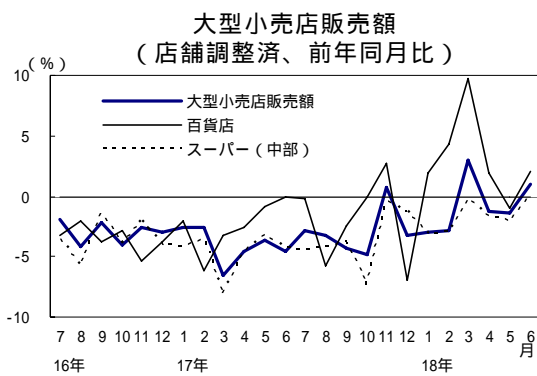
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、4月は、全般的に天候不順で、春・夏物衣料品の動きは鈍かったものの、靴や鞆、アクセサリなどの身の回り品や時計、宝飾品などの高額商品の動きが好調だったことから、前年を上回った。5月は、前年より日曜日が1日少なかったことや、天候不順により客足が鈍く、夏物衣料品が伸びなかったことなどから、前年を下回った。6月は、気温が上昇し、夏物衣料品に動きが出始めたことや、催事効果等により飲食料品の動きが好調だったことから、前年を上回った。

スーパーは、飲食料品が6月に前年を上回ったものの、衣料品が振るわず全体では前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

「中旬の暑さで4～5日間はエアコンが爆発的に売れたが、月全体では梅雨明けの遅れから期待以上に伸びず、売上は前年比で微増にとどまった(家電量販店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



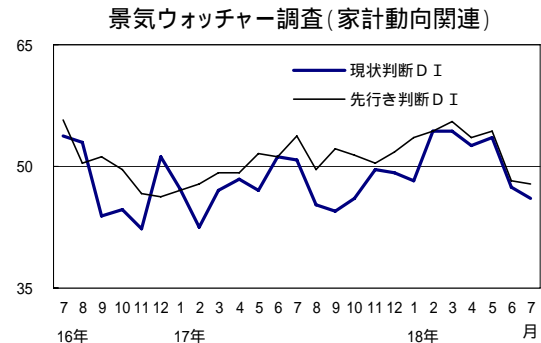
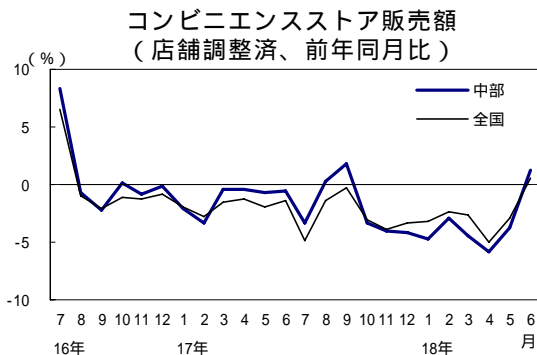
	(前年同月比、%)			
	17年7-9月	10-12月	18年1-3月	4-6月
大型小売店	3.4	2.5	1.1	0.5
百貨店	2.5	2.2	5.4	0.9
スーパー	4.2	3.0	2.2	1.2
コンビニ	0.5	3.9	4.0	2.8
景気ウォッチャー	46.8	48.3	52.3	51.2

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

百貨店は日本銀行金沢支店調べ。

スーパー、コンビニは中部地区。

2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

持家、貸家、給与、分譲が前年を上回ったことから、全体では大幅に増加している。

(3) 公共投資は18年度累計で見ると前年度を下回っている。

